

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：22604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730185

研究課題名(和文) 経済組織のガバナンスと公正な資源配分

研究課題名(英文) Economic Governance and Equitable Allocations

研究代表者

加藤 晋 (Susumu, Kato (Cato))

首都大学東京・都市教養学部・准教授

研究者番号：30553101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、経済組織のガバナンスにおける3つの基本課題を検討した。第一は、経済組織における集団的決定について検討を行った。民主的な手続きの問題と可能性を明らかにした。第二に、経済組織における公平な配分について分析を進めた。公平性の概念を定式化し、効率性と整合的な公平な配分を検討した。第三に、市場機構のガバナンスについて分析を行った。特に、競争政策、環境政策、税制、民営化政策など市場配分に大きな影響を与える政策課題を検討した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conduct three subjects that are fundamental for the governance of economic organizations. First, we examine the collective decision process in economic organizations. We clarify the difficulty and possibility of democratic processes. Second, we examine equitable allocations in economic organizations. Formalizing several concepts of equity, we characterize an equitable allocation that is compatible with efficiency. Third, we examine the governance of markets. In particular, we consider several policies that affect market allocations: competition policies, environmental policies, taxation, and privatization.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：ガバナンス 公平性 集団的決定 コンドルセのパラドックス 経済組織 社会厚生

1. 研究開始当初の背景

開始以前には(a)厚生経済学の基礎研究、(b)競争政策、(c)世代間公平性などの課題などに取り組んでいた。(a)では厚生概念の検討を行い、(b)では産業組織論の枠組みで政策分析を行い、(c)では将来世代を割り引かない評価方法について研究を進めた。こうした研究状況の中で、経済発展にとっては市場・国家・企業をはじめとする組織において適切にガバナンスが行われなければならないと考えるに至った。

2. 研究の目的

第一に、集団的決定の理論的構造を明らかにする。組織はその構成員から成っており、そのガバナンスは究極的には組織内の個人の集団的決定に依存する。個人の選好の集計を分析することで、ガバナンスの基本的課題が考察可能である。

第二に、公平な資源配分の特徴付けと達成方法を考察する。経済における資源配分は効率性だけが唯一の評価方法ではなく、公平性も重要な基準となり得る。公平性基準を定義し、その実際的な意義を検討する。

第三に、市場の分析を行う。特に、公的部門と私的部門の連関について検討する。

3. 研究の方法

主として理論的問題を扱うため、モデルを定式化して、その分析を行うこととなる。主に、社会的選択理論、ワルラス的市場のモデル、ゲーム理論を応用したモデルを用いることになる。特に、社会的選択理論では、望ましい条件を公理として課す公理的分析を行うことになる。

研究は研究会参加、学会参加、文献等を通じて情報収集・意見交換を行いながら進めていく。完成した論文は、研究報告を通じて修正・改善を行い、学術雑誌に投稿する。

4. 研究成果

(1) 集団的決定の構造の検討

まず、社会的決定の機能不全を示す「コンドルセのパラドックス」がどのような場合に起こるのかについての条件を検討した。さらに、より一般的な理論的結論である「アローの不可能性定理」の分析を進めた。

アローの定理の代替的証明を提案し、その理論的な構造を明らかにした。そのうえで、アローの定理の前提条件を変更した場合にどのような結論が得られるのかを検討した。特に、前提条件となっている「全会一致制」を課さない場合について体系的な分析を提示した。また、全会一致制を強めた場合にどのような決定構造になるかを明らかにした。

パラドックスや不可能性を検討する一方で、ガバナンスのための積極的方法を検討するため、「多数決制」の特徴付けを行った。特に、多数決制の持つ合理的性質を示した。

加えて、集計された社会的決定の「合理性」

を考察するため、「二項関係」の基本的性質についていくつかの研究を行った。

(2) 公平な配分の研究

生産技術が存在する場合の公平な配分の分析を進めた。公平な基準として「無羨望条件」に着目し、条件を定式化し直した。修正された無羨望条件と効率性を満たす資源配分は、所得を平等化するような配分になることを示した。これは、公平なガバナンスに基本的視座を与える。これを達成するような方法についても検討を加えた。

さらに、時間の流れを導入し、持続可能性の観点から公平性を論じた。無羨望条件および平等性等価条件に注目した。

(3) 市場の分析

規制緩和などにより参入がしやすくなっているという観点から、自由参入市場のガバナンスを検討した。まず、基礎研究として、自由参入市場の戦略的構造を検討した。そのうえで、企業合併があった場合に、どのように参入規制を行えばいいかを検討した。合併企業の技術変化に応じて、参入規制を柔軟に行う必要性があることが示された。

また、自由参入市場において国営企業が民営化した場合の競争政策について分析を行った。また、外国企業の進出があったさい民営化政策をどのように運営すべきかを検討した。これらの分析は、自由参入市場のガバナンスについて基本的な視座を提供する。

その他、自由参入のない場合についてもいくつかの検討を行った。まず、環境政策と民営化政策の関連について研究を行った。また、市場の競争度がどのように企業の研究開発に影響を与えるか検討した。さらに、国営企業の技術について分析を行った。

さらに個々の企業の内部におけるガバナンスについて分析を進めた。

(4) これらの位置づけおよびインパクト

社会的決定の安定性、福祉による公平性、競争に基づく効率性、とガバナンスに関して三つの柱を立てて研究を進めた。これら効率性、公平性、安定性という三つの観点は、アーサー・セシル・ピグーがその著書『厚生経済学』において三命題として表現した分析的視角に対応する。ピグーの主題が、より良い社会のための実践であったように、本研究の主たる意義は「ガバナンス」という実践を通じた厚生経済学の理論分析にある。

こうした研究を行っていく中で、新たに明らかになってきた点は、福祉の概念の重層性である。福祉とは本来重層的であって、所得や財だけで考察することは難しい。今後は、本研究のピグー的な実践的視点を重視しながら、貧困と不平等を重層的に分析していくことを試みていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

加藤晋, Environmental Policy in a Mixed Market: Abatement Subsidies and Emission Taxes, Environmental Economics and Policy Studies, 査読有, 13, 2011, pp.283-301, 10.1007/s10018-011-0017-z

加藤晋, A Note on the Extension of a Binary Relation on a Set to the Power Set, Economics Letters, 査読有, 116, 2012, pp.46-48, <http://dx.doi.org/10.1016/j.econlet.2011.12.074>

加藤晋, Szpilrajn, Arrow, and Suzumura: Concise Proofs of Extension Theorems and an Extension, Metroeconomica, 査読有, 63, 2012, pp.235-249, 10.1111/j.1467-999X.2011.04130.x

加藤晋, Pareto Principles, Positive Responsiveness, and Majority Decisions, Theory and Decision, 査読有, 71, 2011, pp.503-518, 10.1007/s11238-011-9261-8

加藤晋, Complements and Consistent Closures, Discrete Mathematics, 査読有, 302, 2012, pp.1218-1221, <http://dx.doi.org/10.1016/j.disc.2011.11.033>

加藤晋, 大木良子, The Top-Dog and the Lean and Hungry Look Strategies in Endogenous Entry, Economic Modelling, 査読有, 28, 2011, pp.2776-2782, <http://dx.doi.org/10.1016/j.disc.2011.11.033>

加藤晋, Social Choice without the Pareto Principle: A Comprehensive Analysis, Social Choice and Welfare, 査読有, 39, 2012, pp.869-889, 10.1007/s00355-011-0564-z

加藤晋, 松村敏弘, Long-run effects of foreign penetration on privatization policies, Journal of Institutional and Theoretical Economics, 査読有, 168, 2012, pp.444-454, <http://dx.doi.org/10.1628/093245612802920999>

加藤晋, Fair Allocations in Large Economies with Unequal Production Skills, International Journal of Economic Theory, 査読有, 8, 2012, pp.321-336, 10.1111/j.1742-7363.2012.00198.x

加藤晋, 大木良子, Leaders and Competitors, Journal of Economics, 査読有, 107, 2012, pp.239-255, 10.1007/s00712-012-0271-y

加藤晋, The Efficiency of the State-Owned Firm and Social Welfare: A Note, Bulletin of Economic Research, 査読有, 64, 2012, pp.275-285, 10.1111/j.1467-8586.2010.00386.x

松島法明, 松村敏弘, 加藤晋, Competitiveness and R&D competition revisited, Economic Modelling, 査読有, 31, 2013, pp.541-547, <http://dx.doi.org/10.1016/j.econmod.2012.12.016>

加藤晋, Remarks on Suzumura consistent collective choice rules, Mathematical Social Sciences, 査読有, 65, 2013, pp.40-47, <http://dx.doi.org/10.1016/j.mathsocsci.2012.06.006>

加藤晋, 松村敏弘, Long-Run Effects of Tax Policies in a Mixed Market, FinanzArchiv/Public Finance Analysis, 査読有, 69, 2013, pp.215-240, <http://dx.doi.org/10.1628/001522113X666944>

加藤晋, 松村敏弘, Merger and Entry-License Tax, Economics Letters, 査読有, 119, 2013, pp.11-13, <http://dx.doi.org/10.1016/j.econlet.2012.12.038>

加藤晋, Social Choice, the Strong Pareto Principle, and Conditional Decisiveness, Theory and Decision, 査読有, 75, 2013, pp.563-579, 10.1007/s11238-013-9352-9

加藤晋, Alternative Proofs of Arrow's General Possibility Theorem, Economic Theory Bulletin, 査読有, 1, 2013, pp.131-137, 10.1007/s40505-013-0012-6

[学会発表](計6件)

加藤晋, Rationality and Revealed Preference, 日本経済学会春季大会, 2011年5月22日, 熊本学園大学.

加藤晋, Social Preference Cycles, 日本経済学会秋季大会, 2011年10月30日, 筑波大学.

加藤晋, Collective Rationality and Social Choice, 第17回DCカンファレンス, 2011年9月16日, 筑波大学.

加藤晋, Rationality and Revealed Preference, Society for the Advancement of Economic Theory 2012年7月1日 Brisbane, Queensland, Australia.

加藤晋, Impossibilities of Stationary Ordinal Equity, Canadian Economic Association, 2013年5月30日~2013年6月2日, Montreal, Canada.

加藤晋, Closure Operators and Revealed Preference, The Association of Southern European Economic Theorists, 2013年11月7日~2013年11月9日, Bilbao, Spain.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 晋 (KATO(CATO) Susumu)
首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号：39553101

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：